

令和 7 年度（2025 年度） 第 2 回柏崎市健康づくり健推進会議 会議報告

開催日時 令和 7 年（2025 年）9 月 25 日（木）15：00～17：00

会 場 柏崎市役所 1 階 多目的室
議 事

(1) 令和 7 年度（2025 年度）「第 1 回歯科推進会議」及び「第 1 回食育推進会議」の報告

(2) 健康みらい柏崎 21（第 1 章から第 3 章）素案の修正について （意見なし）

(3) 第 4 章 柏崎市第三次健康増進計画素案について

【栄養・食生活分野】

（質疑）

- ・食生活改善推進員の県総会で、新潟県は食塩摂取量が高く、野菜摂取量は国より多いが目標には達していないと聞いた。市の塩分摂取量がわかると、目標値として設定できるのではないか。
（事務局回答）「食塩を何グラム摂取しているか」「野菜を何グラム食べているか」といった詳細なデータを把握できる仕組みがないため、市独自の数値はない。県民栄養調査の中で柏崎市も一部世帯が参加しており、その結果が唯一の参考データとなる。地域によっては漬物をよく食べる、あるいは家庭菜園で野菜を多く摂取するなどの傾向があることは把握しており、そうした地域性も踏まえながら、今後は塩分の取り方に関する啓発を進めていきたい。

（意見）

- ・健康推進員の活動として、コミセン祭りで味噌汁の塩分を体験する取り組みが好評であった。実感できる活動が学びにつながると思うので、体験型イベント等で工夫をして啓発してほしい。

【身体活動・運動分野】

（質疑）

- ・指標である「中学 2 年生の体力合計点」は、男子の現状値が女子より低い、目標値は高く設定されている。どのように分析しているか。
（事務局会合）目標値は令和元年度から令和 6 年度までの平均値をもとに設定した。過去のデータでは男子の数値が高かったため（令和 6 年度の数値は低い、それ以前の 5 年間は高い）、このような目標値となっている。

（意見）

- ・コロナ禍が明けて子どもの外遊びや運動が増加し、今年は転倒する子どもが減少したと感じている。
- ・小学校では、運動する機会が体育の時間が主であり、中学校では部活動の地域展開が進んでいる。水泳に関しては水球チームがあるが、他の部活動の動きがなかなか見えてこない中で、目標値を上げていくことは難しいのではないか。
- ・中学 2 年生男子の「1 週間の総運動時間」の目標が高いが、努力次第で達成可能である。目標達成に向けた取り組みが重要。運動する・しない子どもの二極化が進む中、活動する場所の確保が課題である。全天候型屋内運動場の整備や既存の運動施設だけでなく、屋外の競技できる場などができるときかけ作りとなるため、子どもから大人まで体を動かす機会が増えることを期待したい。

- ・SNS 活用による運動啓発は有効だが、子どもは視聴時間の問題もあり、適切な範囲で活用できるとよい。

【喫煙・COPD・飲酒分野】

（質疑）

- ・「適量を超えて飲酒している人の割合」について、柏崎市は県や国と比べて低い数値をなっているが、特別な取組がされているのか。

（事務局回答）特定健康診査の質問票の結果をもとに算出したこのデータである。飲酒量が多い方や気になる方については、特定保健指導の中で説明や支援を行っている。国や県より数値が低いことがこれらの取組の効果によるものかどうかまでは把握していないが、今後も引き続き同様の取組を継続していきたいと考えている。

- ・喫煙では「妊娠中のパートナー」を指標に入れている点が良い。パートナーの喫煙率を低下させるには、直接本人に働きかける取組がないと減少は難しいのではないかと。どのような取組を行っているか。

（事務局回答）妊娠中のパートナーの喫煙率は、国の調査をもとに目標値を設定している。パートナーに直接働きかける機会としては、子育て支援課で実施している「パパママセミナー」や、妊娠届出時に夫婦で来庁する際に、その場での啓発を行っている。また、妊娠をきっかけとして、妊婦からパートナーへ禁煙を促してもらうような啓発も進めている。今後は、関係課とも連携しながら、より効果的な取組方法について検討していきたい。

（意見）

- ・事業所で、働く世代の方へ保健事業を実施しているが、飲酒・喫煙のセミナーは参加者が少ない。意識の低い層への働きかけは必要と思う。また、全面禁煙等の対策は、経営者の理解も重要なので働きかけも必要。

【こころの健康・休養・睡眠分野】

（意見）

- ・「こころの健康」の項目では主に睡眠が挙げられているが、以前、静岡県で自殺対策のキャッチフレーズに「きちんと眠れていますか」といった呼びかけを用いていた例があり、「こころの健康」への入り口として有効だと思う。
- ・睡眠はこころの健康だけでなく、生活習慣である朝食欠食や、生活習慣病のリスクにもなり、身体活動・運動にも影響があるので、その周知が大切になる。
- ・ストレス過多についての現状把握ができ、評価指標にも反映できるとよいのではないかと。
- ・コロナ禍で子どものメディア利用増により斜視が増加しているとニュースで聞いたことがある。斜視による見た目が変わること、いじめにつながることも心配される。
- ・聴力も認知症リスクに関係がある。視力・聴力の機能低下も、体の健康に関する一部として、計画に盛り込めるか検討してほしい。
- ・児童生徒の望ましい生活習慣の定着における、SNS との付き合い方は大きな課題である。家庭との連携と強めながら、学校としても適切な取組を推進していく。
- ・ゲームをして遅くまで起きている保護者もいて、子どもの SNS 利用や生活習慣は親の影響が大きく、保護者の意識改革が必要。

- ・親も含めた啓発の場を設け、子どもから親へ伝わる形の啓発も有効ではないか。
- ・「子どもとメディアを考える会」では、平成28年度から取組を継続しているが、効果が見えにくく、活動の広がりが課題。家庭や園・学校と連携した取組を考えてもらいたい。
- ・メディアや塩分・糖も依存に関係している。依存はアルコールだけではない。子どもは前頭葉機能が未発達で、子どもの頃に依存行動にはまるとコントロールができなくなる。運動習慣等の「良い依存」を育てる視点も必要。ランナーズハイのように、努力を伴う行動で得られる達成感が「良い依存」につながる。

【がん（悪性新生物）分野】

（意見）

- ・元気館に掲示された「NHK トリセツショー」ポスターに柏崎市も協力していると明記されていた。良い取組なので、スーパーなどでの掲示で、より広い周知がされるとよい。
- ・よい取組をやっていると思うが、関係団体と協力し、取組を広く発信してほしい。

【その他】

- ・資料のグラフや番号の付け方など、見やすさについても改善してほしい。

（4）第7章 柏崎市第二次自殺対策行動計画素案について

（質疑）

- ・成果指標において、県では人口減少を踏まえ自殺者数を掲載せず、自殺死亡率のみを掲載している。市として自殺者数を記載している意図は何か。

（事務局）死亡率よりも自殺者数を明確に示すことが市民にとって理解しやすいと考えている。

- ・地域自殺実態プロファイルでは5つの重点パッケージ（子ども・若者、勤務・経営、生活困窮者、無職者・失業者、高齢者）があるが、市の資料では「子ども・若者」、「無職者・失業者」が除外され、「勤務・経営」、「生活困窮者」、「高齢者」の3つが選ばれている意図は何か。

（事務局）柏崎市では特に「勤務・経営」「生活困窮者」「高齢者」の3分野で課題が顕著に見られていることが課題である。

- ・「家族間の不和」が要因に挙がっているが、同居していても孤立している人もおり、その点をどのように考えているか。

（事務局）孤立は非常に大きな要因であり、同居者であっても孤立しているケースが多い。包括支援センターや介護高齢課など関係機関と連携して対応を進めたい。

（意見）

- ・活動目標の「ゲートキーパー養成研修受講人数（R6年度：9,198人）」について、地域ごとの人数が分かると、誰も取り残さない地域づくりに役立つのではないか。人命に関わる分野であるため個人情報への配慮は必要だが、地域の中で誰が何をしているか見えると、いざという時の連携が取りやすい。
- ・ゲートキーパーは町内会だけでなく、企業や事業所にも配置できないか。働き盛り世代は特に悩みを抱えやすいので検討してほしい。
- ・施策の推進が結果として孤立者の減少につながることを期待する。